

鋼橋技術研究会
鋼橋の技術史研究部会
平成7・8年度活動報告書

平成10年12月

1. まえがき

本部会では、歴史的に価値のある鋼橋の現地見学とそのあとの検討会という形で、明治以降の古い橋を勉強してきました。毎回、担当者を決めて、資料の準備と検討会のまとめを行ってきました。本冊子は、平成7・8年度に見学を実施した東京都内の橋のうち10橋について取りまとめたものです。

部会でのメンバーの意見や着目点などを反映させながら執筆するように努めましたが、著名な橋が多く、これまで多くの書物や雑誌に繰り返し紹介されてきておりますので、どれだけ独自色を出せたかについてはあまり自信がありません。しかし、各橋のディテールに目を向けた記事は意外に少ないようで、本冊子の「この橋の見どころ」紹介で、古い橋の魅力の一つはディテールにあることをお伝えできるとよいと考えております。

資料の豊富な橋とそうでない橋があり、また、検討会に十分な時間を取れなかった橋もあり、精粗があるのは認めざるを得ませんが、今回の取りまとめに当たって、改めて資料調査や聞き取りを行って、最近の著作物では製作所が不明とされてきた橋の製作所を明らかにすることができたものもあります。

執筆に当たって改めて現地に出向いたメンバーもおりますが、古い建造物の調査は、一度で済むということはなく、現地に足を運ぶ度に新しい発見があるものだ、ということをメンバー諸兄も体得し始めたようであります。

これまで何となく眺めていた橋に、何か新しい魅力を見出していただく一助になれば幸いです。

なお、「4. スクワイヤー・ホイップルのアーチトラス橋」は、八幡橋のことを調べる過程で、ホイップルの教科書やその他の文献に出会うことができましたので、従来あまりくわしく記述されたことのない、彼のパテントの橋について紹介するものです。

平成10年4月

鋼橋の技術史研究部会
部会長 小西 純一